



5月16日(木)～5月19日(日)の日程で、堀江会長をはじめ協会役員、関係者の皆様が、韓国視察旅行を実施しました。今回は、釜山、大邱、ソウル方面の視察でしたが、特に大邱にある「水崎林太郎の墓」では、日韓いけばな交流の会佐治会長のお勤めにより、皆様に供養されました。水崎林太郎は岐阜から大邱へ渡ってきた開拓移民で、大邱の土地改良のための貯水池造成に尽力した人物で、日本へ帰ることなく、大邱にて生涯を終えました。

日韓交流報

一般社団法人 日韓経済文化交流協会 新春の集い



令和6年
 3月～5月号



金星秀総領事 堀江俊通会長 広瀬裕樹学長 中里高之市議 丹羽司一理事



今年の新春の集いは、2月27日(火)に札幌かに本家栄中央店にて開催されました。堀江会長の開会辞、金星秀総領事、広瀬愛知大学学長のご祝辞、中里市議の乾杯のご発声により開会され、三河万歳さんと加藤訓音さんのアトラクションで盛り上がり、ご参席いただきました皆様の今年一年のご健康・ご多幸を祈念しつつ、丹羽理事の閉会辞にてお開きとなりました。

協会活動の報告・予定

令和6年

- 2月20日(火) 名古屋日韓親善協会 新春の集い
- 2月27日(火) (一社)日韓経済文化交流協会 新春の集い
- 4月9日(火) 韓日陶磁器文化交流展 調印式
- 4月22日(月) 令和5年度 第4回理事会
- 5月4日(土) 国際交流音楽祭 来賓：堀江会長
- 5月16日(木)～5月19日(日) 韓国視察旅行
- 5月22日(水) 韓日陶磁器文化交流展 開会式
- 6月17日(月) 令和5年度 第5回理事会
- 6月21日(金) 2024韓日友好いけばな展・韓日陶磁器文化交流展 開会式
- 6月24日(月) 韓日未来発展セミナー
- 6月26日(水) 韓日歴史・文化フォーラム
- 7月6日(土) 韓日スピーチコンテスト2024

理事会報告

令和5年度第4回理事会は、令和6年4月22日(月)18時00分より札幌かに本家栄中央店にて、下記の出席者にて開催され、代表理事である堀江会長が議長として、下記の議題について審議しました。

出席者	会長	堀江俊通	理事	川原弘久	理事	丹羽司一
	理事	日置達郎	理事	成田勝彦	理事	大島昭夫
	理事	高山進	理事	斉藤好一	理事	大橋文俊
	理事	鈴木日出男	監事	桜本海ハル	事務局	澤田秀樹 (敬称略)

- <議 題>
- ① 令和6年5月22日(水)～ 韓日陶磁器文化交流展について
同交流展開催に至った経緯、期間中の警備・参観者対応、展示品の搬入搬出について確認調整し、万全の準備をすることで承認されました。
 - ② 令和6年7月6日(土) 韓日スピーチコンテスト2024について
参加弁士の人数、内容等の開催内容についての説明がなされ、当日の役割分担を確認しました。
 - ③ 韓国交流視察旅行について
5月16日(木)から5月19日(日)までの行程を確認しました。
 - ④ 韓国関連法人設立について
日韓双方の思惑が一致するような方針でないと、歪みが発生する恐れがあるため、慎重に検討する旨を確認しました。
 - ⑤ その他
新規正会員として、(株)大原工務店 営業部長 大原貴徳氏、(株)佐野塗工店 代表取締役 佐野智正氏が紹介されました。

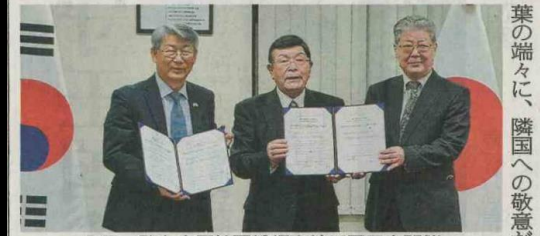
デスクの眼



2024年4月29日
中日新聞 朝刊

「誠信交隣」
江戸時代の儒学者、雨森芳洲が重んじた言葉だ。現在の滋賀県長浜市に生まれ、対馬藩の外交担当者として朝鮮王朝が日本に送った「朝鮮通信使」に随行した芳洲は、誠実と信頼に基づき交流の大切さを説いた。
その言葉通りの交流に出合った。名古屋市内の陶芸愛好家、遠藤和彦さん(77)のアトリエには、若い時から集めてきた朝鮮半島由来の陶磁器などが、ところ狭しと並んでいる。
遠藤さんが心を引かれるのは、実生活で使われた品々だという。

日韓国交正常化60年を前に



9日、駐名古屋韓国総領事館で展示会開催で調印した金星秀総領事(左)、日韓経済文化交流協会の堀江俊通会長(中)、遠藤和彦さん(右)。

「誠信交隣」を重ねたい

陶工の意図や人々の思いを考へる。「生活文化を知ることが、その民族への尊敬につながる」。言葉の端々に、隣国への敬意がにじむ。
収蔵品に感動した日韓経済文化交流協会の堀江俊通会長は、遠藤さんを駐名古屋韓国総領事館の金星秀総領事に紹介した。金氏は中部地方の陶磁器文化をよく知り、その魅力を伝えることもある。互いの文化を尊重し合う3人は意気投合。5月22日から、総領事館で「韓日陶磁器文化交流展」を開くことになった。
日本と朝鮮半島の間に暗い歴史も横たわる。16世紀後半に文禄・慶長の役があった。韓国では壬辰倭乱と呼ばれる。20世紀には日本による植民地支配があった。遠藤さんは当時の人々の思いに寄り添う。朝鮮半島から強制的に「連れてこられた陶工たちの悲しみ」の上に、日本の近世の陶磁器文化がある。植民地時代に日本には大量の陶磁器が入った。それらに正当な対価が支払われていたのだろうか。
金氏は不幸な歴史を踏まえた上部地方の陶磁器文化をよこ知り、その魅力を伝えることもある。互いの文化を尊重し合う3人は意気投合。5月22日から、総領事館で「韓日陶磁器文化交流展」を開くことになった。
展示会場の総領事館ホールには「誠信交隣」の額が掲げられている。教えが美を結んだことを、芳洲も喜んでくれることだろう。
今、日韓関係は良好だ。2022年3月に韓国政府が元徴用工問題を巡る解決策を発表して以降、首脳間のシャトル外交が復活。24年版外交青書は、14年ぶりに韓国を「パートナー」と位置づけた。
来年は日韓国交正常化から60年。岸田文雄首相は昨年の訪韓で、歴史問題について「心が痛む思いだ」と語った。ぬくもりが感じられる「誠信交隣」を重ねながら、節目の時を迎えたい。



5月22日(水)から6月28日(金)まで、駐名古屋大韓民国総領事館にて、韓日陶磁器文化交流展が開催されました。これは堀江会長と陶磁器に精通されている遠藤先生との交流から、金星秀総領事のご厚意により、調印式を経て実現しました。大変好評だったことから期間終了後の現在も、駐名古屋大韓民国総領事館1階にて展示が継続されており、年内は観覧可能でございますので、ぜひ一度足をお運びください。

